

主催:洗足学園音楽大学・大学院

2022年9月21日 水

18:00開演 | 17:30開場

前田ホール 洗足学園音楽大学

# 彩りの調べ

～個性輝く8人のソリスト達～

## プログラム

C.M.v. ウェーバー／アンダンテとハンガリー風ロンド 作品35

F.ダヴィッド／コンチェルティーノ より 第1、2、3楽章

A.グラズノフ／サクソフォン協奏曲 作品109

P.ヒンデミット／トランペットとピアノのためのソナタ より 第1、2、3楽章

～休憩～

A.コーブランド／クラリネット協奏曲

B.リャトシンスキー／《5つの前奏曲》作品44 より第3曲

三善晃／ピアノ・ソナタ より 第2、3楽章

L.ブローウェル／舞踏礼賛、ラ・グラン・サラバンダ

E.セジヨルネ／マリンバと弦楽の為の協奏曲 より 第1、2楽章

## ご来場のお客様へご協力をお願い

次項につきまして下記のとおりにご了承くださるようお願いいたします。

- ① 新型コロナウイルス感染症対策につきまして
- ② 公演収録に伴う一部のお客様の映り込みにつきまして

① 新型コロナウイルス感染症対策につきまして

◎ 入場制限について(次に該当する方はご入場いただけません)

- ・ 37.5℃以上の発熱がある方、発熱が続いている方
  - ・ 風邪の症状(発熱、咳、くしゃみ、喉の痛み等)がある方
  - ・ 強いだるさ(全身倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある方
  - ・ その他体調に不安がある方(味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節痛、下痢、吐き気等)
  - ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触があり、行動制限中となっている方。
  - ・ 政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触があり、行動制限中となっている方。
- ※基礎疾患(糖尿病・心不全・呼吸器疾患等)がある方、妊娠中の方は、医師の判断や関係機関の情報を確認の上、慎重なご判断をお願いします。

◎ ご入場の際し、以下の事項についてご協力をお願いします。

- ・ 上記「入場制限について」への同意
- ・ 感染者が発生した場合には、必要に応じてご来場者情報を保健所へ提供させていただく場合がございますので予めご了承ください。(提出いただいた個人情報は新型コロナウイルス感染の発生がなかったことを確認の上、演奏会約三か月後に適切に削除します)
- ・ マスク着用の徹底(不織布マスクを推奨、鼻にフィットさせ正しく着用のごこと)やソーシャルディスタンスの確保などエチケットの厳守をお願いします。
- ・ 楽屋面会、花束やプレゼントの持ち込みはお控えください。
- ・ 演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願いいたします。

◎ 車いすでご来場のお客様へ

車いすでご来場のお客様はチケット購入前に予めお問い合わせいただきますようお願いいたします。

◎ 公演収録に伴う一部のお客様の映り込みにつきまして

各公演では、映像収録および写真撮影用の機材が会場内に入り、ご来場のお客様の様子が映像・写真等に映りこむ場合がございます。収録された映像・写真は、YouTube や SNS、ウェブサイト、テレビ、印刷・出版物等において、大学案内等のプロモーションやその他の目的で使用される可能性がありますので、予めご了承下さい。

# ご挨拶

ご来場の皆様へ、本日は学内リサイタル講座ジョイントリサイタルへようこそ。本日演奏する学生は、この前田ホールで独奏を経験する事の出来る少ないチャンスを得られた48名の学生です。これまで4年間の研究生生活で、切磋琢磨して磨き上げたその成果をお聴きいただき、これから日本そしてアジア、世界へ羽ばたこうとする若人へ拍手とマスクで声は出せませんが心の中から声援を送って下さい。

洗足学園音楽大学 教授 渡部 亨  
教授 大和田雅洋

本日は洗足学園音楽大学4年生による学内リサイタル講座「彩りの調べ～個性輝く8人のソリスト達～」にお越し頂き、誠にありがとうございます。この演奏会に向け、演奏者各自がそれぞれの音楽に真剣に向き合ってきました。音楽とは何か。1人1人のそれぞれの想いや考えを、個性溢れる音で、お越し下さった皆様と共有が出来たらと思っております。最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

本日の演奏会を開催するにあたり、様々な形で御指導、御協力頂きました諸先生方をはじめ、関係者の皆様、本日ご来場頂きました皆様に厚く御礼を申し上げますと共に、今後ともより一層の御激励、御支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

第4グループ インспекター 小野寺 俊介

## プログラム

～第一部～

### 上治 唯奏 (Fg.) 伴奏：森 りか

#### ○ C.M.v. ウェーバー／アンダンテとハンガリー風ロンド 作品35

カール・マリア(・フリードリヒ・エルンスト)・フォン・ウェーバーは1786年にドイツのオイティンに誕生したロマン派初期の作曲家であり、代表作「魔弾の射手」はドイツ・ロマン派のオペラ様式を完成させたと言われている。「アンダンテとハンガリー風ロンド」は当初ヴィオラ奏者である弟フリッツのためにヴィオラとオーケストラのために「ハンガリー風ロンド」として1809年に作曲された。その後、1813年に序奏的なアンダンテを加え、ウェーバー自身の手でファゴットとオーケストラのために編曲されている。前半のアンダンテは、哀愁のある主題とその変奏の形式となっており、後半のロンドはアンダンテとは対照的に快活なハンガリー風の旋律とリズムがファゴットならではのユーモラスな表情を持って表現されている。

### 小森 豊生 (Tb.) 伴奏：小松 祥子

#### ○ F.ダヴィッド／コンチェルティーノ より 第1、2、3楽章

フェルディナンド・ダヴィッドは1810年ドイツ・ハンブルク出身のヴァイオリン奏者であり作曲家だ。ダヴィッド自身は1836年からゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスターを務めており、このトロンボーン小協奏曲は1837年に書かれている。この曲は、オーケストラのオーディションでは欠かせない曲になっており、トロンボーン奏者には避けて通れない曲でもある。3楽章構成でA-B-Aの形式をしているが、通常全てattaccaで演奏される。

第1楽章 Allegro maestoso：美しい旋律の序奏の後、とても力強いトロンボーンのソロが始まる。

第2楽章 Andante：葬送行進曲という楽章名がついており、重い足を運ぶような楽章になっている。

第3楽章 Allegro maestoso：前半は第1楽章の再現部となっており、後半には最終章に相応しい力強く煌びやかな楽章になっている。

### 矢澤 亘 (Sx.) 伴奏：弘中 佑子

#### ○ A.グラスノフ／サクソフォン協奏曲 作品109

アレクサンドル・グラスノフはロシア(旧ソ連)の作曲家。作品はドイツの名手、ジークルト・ラッシャーによって委嘱された。ロシア国民学派を受け継ぐ民族主義を基調にロシア・ロマン派と融和させた彼の作風が、最も成熟している最晩年の作品である。サクソフォンと弦楽5部の為に書かれた作品で、三楽章構成だが単一楽章で書かれている。本日はピアノ版で演奏する。第一楽章はアレグロモデラート。ピアノの第一主題の後、サクソフォンが主題を変形させつつ反復する。ト短調に転じた第二主題はアレグロ・スケルツァンドで提示される。音階的な要素の強い旋律は大きく速くなっていくが、急降下して唐突に終わる。

第二楽章は第一主題の要素を発展させた、変ハ長調の美しい旋律が4分の3拍子で展開された後サクソフォンのカデンツァに繋がる。ここでは第一楽章第二主題の変形が断片的に繰り返され、やがて8分の12拍子で描かれる最終楽章のフーガ主題へと発展する。

最終楽章ではこの主題をピアノに引き継ぎながら、これまでの主題の再現や変奏が織りなされていく。グラズノフが後年「ロシアのブラームス」と呼ばれた所以を感じ取ることが出来る。終盤では第一楽章第一主題の要素を強め、変ホ長調の主音で幕を閉じる。

## **溝口 大輔 (Tp.)** 伴奏：小松 祥子

### ○ P.ヒンデミット／トランペットとピアノのためのソナタ より 第1、2、3楽章

パウル・ヒンデミットは1895生まれ、ドイツのハーナウ出身の作曲家、指揮者、ヴィオラ奏者である。彼はオーケストラで必要とされる楽器のほとんどを演奏することができたという逸話があるほど多彩な演奏家であった。そのため、600曲以上を作曲した中で、オーケストラを構成するほぼすべての楽器のためのソナタを作曲したことも知られている。この楽曲のことを、ヒンデミット自身は当時、「私が作った作品の中でも最高の作品だろう」と言った記録もあるようで、相当な自信を持っていた楽曲である。

全3楽章からなる楽曲で各楽章の冒頭に表現記号で指示がなされている。

第1楽章 Mit Kraft：力強く、活力をもって

第2楽章 Mäßig bewegt：中くらいの速さで

第3楽章 Trauermusik：葬送音楽

のような表記がなされている。

## ～第二部～

## **成瀬 未涼 (Cl.)** 伴奏：石田 多紀乃

### ○ A.コープランド／クラリネット協奏曲

アーロン・コープランドは20世紀アメリカを代表する作曲家のひとりである。

この曲はジャズクラリネット奏者、ベニー・グッドマンの依頼により作曲された。曲は2つの楽章からなり、楽章間はカデンツァを橋渡しに切れ目なく演奏される。

コープランドは作曲の際にグッドマンのジャズ演奏の録音を聴いてクラリネットパートを書き上げたが、楽譜に従って出すには高度な技術を要する音域があった。そのため、ベニー・グッドマンが難色を示し、カデンツァ終盤の高音と終結部のパッセージが変更された。今回はカデンツァ部分を初稿に基づいて演奏する。

クラシック音楽の美しさにジャズのユーモアが落とし込まれた演奏をお楽しみいただきたい。

## **村木 夏帆 (Pf.)**

### ○ B.リャトシンスキー／《5つの前奏曲》作品44 より第3曲

ボリス・リャトシンスキーは20世紀のウクライナ音楽界の礎を築いたとされる作曲家である。《5つの前奏曲》は、1943年、第二次世界大戦中に書き上げられた。

第3曲 Allegro agitato：半音階的で重厚な響きやクロスリズムはリャトシンスキーが初期に傾倒したスクリャーピンの影響を感じさせる。執拗に繰り返されるフレーズが上り詰めた先に登場するメロディーには「con disperazione (絶望的に)」と、表記されており、最後は力尽き消えていく。

### ○ 三善晃／ピアノ・ソナタ より 第2、3楽章

三善晃は、戦後の日本を代表する作曲家の1人であり、《ピアノ・ソナタ》はパリ留学中の1956年に着手し、1958年に初演された。

第2楽章 アンダンテ：半音階を用いたシンプルなテーマから始まり、中間に速い幻想をはさんだ変容を含む3部形式。

第3楽章 プレスト・ロンドとコラル：この曲全体の和声的、旋律的な主軸である中心音に隣接する上下の半音階の図線を、全音階に広げたものが使われており、心理的には抑圧から解放、不安から生气、陰から光への構図と言える。

## **小林 愛美 (Gt.)**

### ○ L.ブローウェル／舞踏礼賛

レオ・ブローウェルは1939年キューバ生まれの作曲家・ギタリスト。彼はこれまでにキューバのリズムを用いた作品や、いわゆる現代音楽の形式など様々なスタイルのギター作品を手がけ、80歳を超える今も現役で作曲活動が続けている。舞踏礼賛は振付師でありダンサーでもあるルイス・トラパタの要求から生まれ、1964年キューバにて初演された。LentoとOstinatoで構成されており、ストラヴィンスキーの「春の祭典」からインスピレーションを受けた作風となっている。Lentoはミの音をテーマにさまざまに曲が展開していく。独特なシンクペーションや時折現れる三連符、複合拍子などの要素は、まさにストラヴィンスキーの音楽を彷彿とさせる。Ostinatoはよりテンポが速くリズムカルに曲が

進んでいく。強弱・音色のコントラスト、そしてgolpe（表面版を叩く奏法）やストロークなどギターならではの色彩に富んだ表情をお楽しみ頂きたい。

## ○ L.ブローウェル／ラ・グラン・サラバンダ

ラ・グラン・サラバンダは毎年アメリカで行われる国際ギターコンクール「GFA Competition」の課題曲として、2018年に作曲された。この曲は全体を通して二短調で書かれており、変奏曲の形式である。冒頭は4拍子の荘厳な序奏から始まり、テーマが現れる。このテーマは17世紀イタリアで大流行した「ラ・フォリア」の和声に基づいて作曲されている。ヘンデルの有名な「サラバンド」のテーマが引用されている変奏もあり、聴きなじみのあるメロディとブローウェルの独特な和声のコラボレーションが楽しめる作品である。テーマを基に様々に変奏が行われるが、中でも第一変奏は急激なアルペジオによって曲が展開していく。故に奏者の技術が最も試される変奏と言える。

## 小野寺 俊介 (Mar.)

### ○ E.セジヨルネ／マリンバと弦楽の為の協奏曲 より 第1、2楽章

作曲者のエマニュエル・セジヨルネは1961年フランス生まれの打楽器奏者・作曲家である。この曲は、オーストリアのリンツで行われた国際マリンバ・コンクールの為として作曲され、当時は今回演奏する2楽章形式の協奏曲であったが、2015年に、この作品を委嘱し初演を行ったマリンバ奏者、ボクダン・バカヌ氏の要望により、もう1楽章書き足された。世界中のマリンバ奏者に愛され、300回以上演奏されている作品である。本日はピアノリダクション版でお届けする。第1楽章ではマリンバの魅力ともいえる優しく温かい音色、そして抒情的な音楽をお楽しみ頂きたい。第2楽章ではフラメンコの曲調を意識したリズムカルかつエネルギッシュな音楽、そして中間部の想い溢れるマリンバソロにご注目頂きたい。

## プロフィール



### 上治 唯奏 (ファゴット)

神奈川県出身。東邦音楽大学附属東邦高等学校卒業。  
12歳よりファゴットを始める。  
これまでにファゴットを鈴木一志に、室内楽を松本健司、山根公男、渡部亨の各氏に師事。  
洗足学園音楽大学にオーケストラ特待生として入学。現在、2022年度前田記念奨学金奨学生として同大学4年次在学。  
第14回中学生・高校生のための管弦打楽器ソロ・コンテスト銀賞、第42回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール木管楽器部門審査員賞受賞。



### 成瀬 未涼 (クラリネット)

神奈川県秦野市出身。神奈川県立伊志田高等学校卒業。  
クラリネットを中村めぐみ氏に師事。ジャズを谷口英治氏に師事。  
アラン・ダミアン、フローラン・エオーの各氏のプライベートレッスンを受講。室内楽を星野均、山根公男、伊藤寛隆の各氏に師事。  
第81回TIAA全日本クラシック音楽コンサートにて奨励賞を受賞。2020・2021年度、洗足学園前田記念奨学金奨学生。



### 小森 豊生 (トロンボーン)

栃木県出身。宇都宮短期大学附属高等学校卒業。  
10歳より地域のブラスバンドでトロンボーンを始める。  
これまでにトロンボーンを小田桐寛之、菅貴登、中沢誠二、米田靖彦の各氏に室内楽を林辰則、渡邊功、池上亘の各氏に師事。



### 村木 夏帆 (ピアノ)

東京都出身。中央大学附属高等学校卒業。  
2021年「電子オルガンによる管弦楽曲とピアノ協奏曲の夕べ」にソリストとして出演。2019-2022年、学内の「選抜学生によるピアノコンサート」に出演。現在、ピアノを松山優香、山田武彦、松山元の各氏に、室内楽を清水将仁氏に師事。ピアノ・プロフェッショナル・パフォーマンスクラス在籍。



### 矢澤 亘 (サクソフォン)

長野県伊那市高遠町出身。長野県伊那北高等学校卒業。  
現在洗足学園音楽大学 学部4年次在学中。  
第24,25回室内楽演奏会及び日本サクソフォン協会「音大生によるサクソフォン四重奏の夕べ 2021,2022」に出演。  
サクソフォンを田中拓也氏に、室内楽を池上政人、貝沼拓実各氏に師事。Nikita Zimin、須川展也 各氏のマスタークラスを受講。  
2020-2022年度洗足学園前田記念奨学金奨学生。



### 小林 愛美 (クラシックギター)

神奈川県出身。神奈川県立大和西高等学校卒業。  
12歳よりギター合奏に会い、15歳より独奏を始める。  
2019-2020年、Japan Youth Guitar Ensembleに在籍しタイ・シンガポール公演に出演。これまでにギターを小林徹、井上仁一郎、大萩康司、鈴木大介の各氏に師事。室内楽を山田武彦、中根康美の各氏に師事。ザビエル・ジャラのマスタークラスを受講。  
第50回神奈川新人ギタリストオーディション首席入賞。  
第47回GLC学生ギターコンクール大学生の部2位入賞。



### 溝口 大輔 (トランペット)

東京都調布市出身。都立豊多摩高校卒業。  
12歳よりトランペットを始める。  
これまでにトランペットを津堅直弘、高橋敦、杉本正毅、篠崎孝の各氏に、室内楽を渡邊功、橋本晋哉、古田賢司の各氏に師事。  
RCO首席トランペット奏者のオマール・トマゾーニ氏のプライベートレッスンを受講。  
ホセ・レアル・シンテロ氏のマスタークラスを受講。



### 小野寺 俊介 (マリンバ)

埼玉県出身。西武台高等学校卒業。  
4歳よりピアノを福井俊子・渡部由記子、16歳より打楽器・マリンバを中村祐子の各氏に師事。  
第5回東京国際マリンバコンクール第2位（1位なし）、第21回日本ジュニア管打楽器コンクールにて金賞（第1位）などを受賞。  
富士山河口湖音楽祭2021にて池上英樹・塚越慎子の各氏によるマスタークラスを受講。  
2020・2022年度、前田奨学金奨学生。